

ポブベックのやさしい投資信託

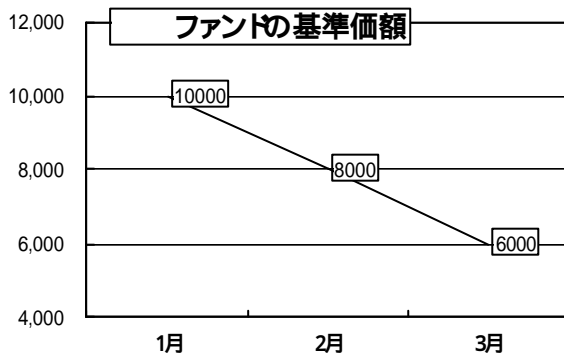
第46回 ファンドの買い方 その2 (10) ファンドの買い方

(10-C) 何故ドルコスト平均法？

前回、基準価額が上昇した時を例に、等金額投資、いわゆるドル・コスト平均法が有利だと解説しました。しかし読者の中には、「有利なのは基準価額が上昇した時だけじゃないの？」と不審に思う方もいらっしゃるでしょう。そこで、基準価額が下落した場合、下落後回復した場合に、等口数投資と等金額投資の損益がどうなるのか計算してみましょう。

基準価額が下落した場合

1月から3月まで、基準価額がこのグラフのように推移したとします。



(a) 等口数投資

各月に1口ずつこのファンドを購入したとすると、各月の購入金額、及びその累計は下表のようになります。

	基準価額	購入口数	購入金額	累計購入金額
1月	10,000	1口	10,000	10,000円
2月	8,000	1口	8,000	18,000円
3月	6,000	1口	6,000	24,000円

全部で3口の購入ですから平均購入単価は、 $24,000 \text{円} \div 3 \text{口} = 8,000 \text{円}$ 。また、3月の基準価額は6,000円ですから3口では $6,000 \text{円} \times 3 \text{口} = 18,000 \text{円}$ 。24,000円を投入して18,000円になったのだから、損失は $18,000 \text{円} - 24,000 \text{円} = 6,000 \text{円}$ 、損失率は $6,000 \text{円} \div 24,000 \text{円} \times 100 = 25.0\%$ となります。

(b) 等金額投資

1万円ずつの購入だと、購入金額は下表のようになります。

	基準価額	購入口数	購入金額	累計購入金額
1月	10,000	1口	10,000	10,000円
2月	8,000	1.25口	10,000	20,000円
3月	6,000	1.67口	10,000	30,000円

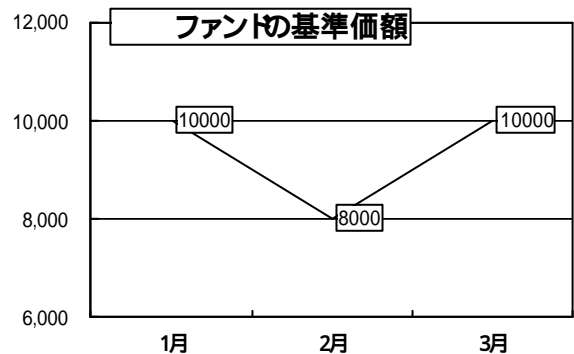
購入合計口数は $1 + 1.25 + 1.67 = 3.92 \text{口}$ 。平均購入単価は $30,000 \text{円} \div 3.92 \text{口} = 7,653 \text{円}$ 。(a)に比べ購入単価は低いですね。3月の基準価額は6,000円ですから $3.92 \text{口} \times 6,000 \text{円} = 23,520 \text{円}$ 。損失額は、 $23,520 \text{円} - 30,000 \text{円} = 6,480 \text{円}$ となります。この額は(a)に比べ多いのですが、損失率は $6,480 \text{円} \div 30,000 \text{円} = 21.6\%$ となり、(a)よりもずっと少ないのです。

	合計口数	購入単価	利益額	利益率
(a) 等口数	3口	8,000	6,000	25.0%
(b) 等金額	3.92口	7,653	6,480	21.6%

基準価額が値下がりしている時にも、等金額投資の方が、等口数投資よりも有利であることがわかります。

基準価額が下落後、回復した場合

では、基準価額が下のグラフのように推移したとするとどうなるのでしょうか。



もう計算の流れは理解できたと思いますので購入単価と損益率だけ示します。途中の計算はご自分でトライしてみてください。

	合計口数	購入単価	利益額	利益率
(a) 等口数	3口	9,333	2,000	7.1%
(b) 等金額	3.25口	9,230	2,500	8.3%

と、なります。

つまり、ドルコスト平均法(等金額で投資する方法)は、基準価額が上昇すれば買う口数を減らし、逆に基準価額が下落すれば、買う口数を増やす投資なのです。安い時にたくさん買って、高くなったら買う量を減らす投資方法なのだから、効率の良い投資が出来るのです。